＝＝＝ＴＡＣＳ情報　第３号＝＝＝

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和７年６月 10 日

農業技術課　広域普及指導センター

１　気象経過

（１）気温

５月の平均気温は、17.7℃（対平年差＋0.2℃）と平年並であった。

６月１半旬の平均気温は、18.8℃（同－1.2℃）と平年に比べ低かった。

（２）降水量

５月の降水量は、122.0mm（対平年比 99%）と平年並であった。

６月１半旬の降水量は、16.0mm（同 129%）と平年に比べ多かった。

（３）全天日射量

５月の平均全天日射量は、18.4MJ/㎡/日（対平年比 100%）と平年並であった。

６月１半旬の平均全天日射量は、17.0MJ/㎡/日（同 87%）と平年に比べ少なかった。

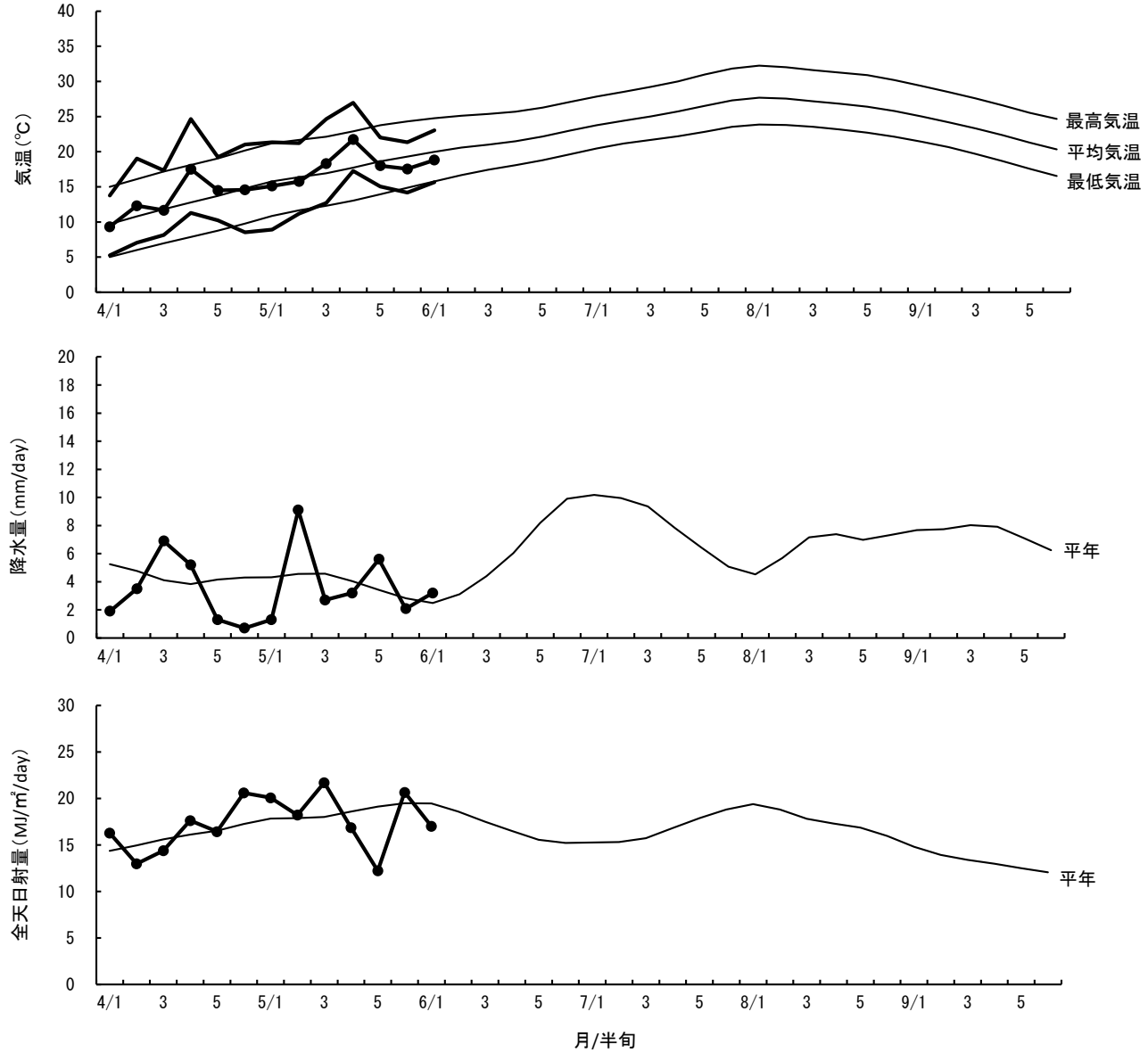


図１　令和７年の気象経過（富山地方気象台）

２　生育状況（生育観測ほデータ）

（１）コシヒカリ

平年に比べ、草丈はやや短く、茎数、葉色、葉齢は並となっている。

表１　「コシヒカリ」の生育状況（６月 10 日　生育観測ほ）

年次	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色	
	（月/日）	（cm）	（本/株）	（本/㎡）		葉色板	SPAD
R７	**5月13日**	**29.4**	**14.3**	**307**	**7.5**	**4.3**	**38.0**
R６	5月14日	28.7	11.5	246	7.2	4.2	37.2
平年	5月14日	31.1	14.4	314	7.5	4.3	38.5
前年比・差	−1	102	124	125	0.3	0.1	0.8
平年比・差	−1	94	99	98	0.0	0.0	−0.5

注）平年　：　H27～R６の平均

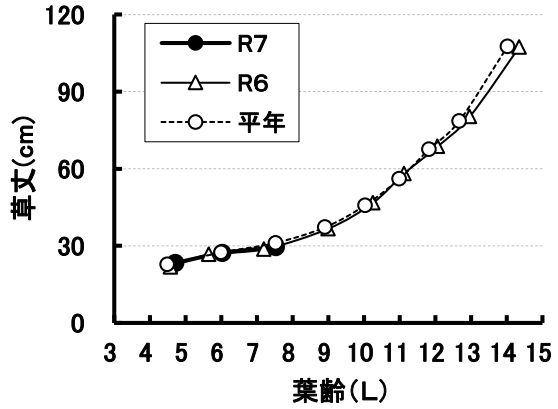


図２ 草丈の推移（生観コシヒカリ）

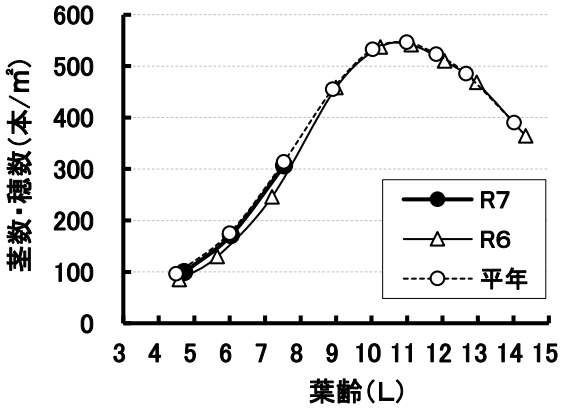


図３ 茎数の推移（生観コシヒカリ）

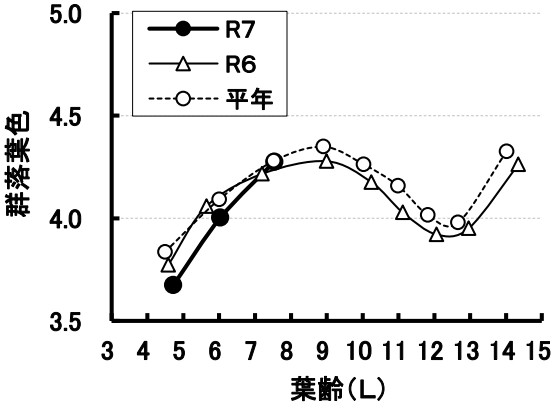


図４ 葉色の推移（生観コシヒカリ）

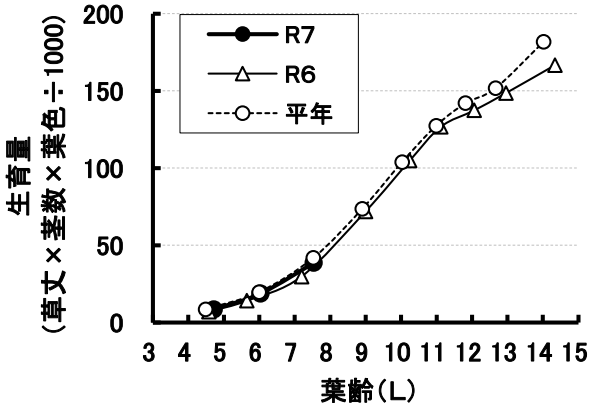


図５ 生育量の推移（生観コシヒカリ）

（２）てんたかく

平年に比べ、草丈、茎数、葉色、葉齢は並となっている。

表２　「てんたかく」の生育状況（６月 10 日　生育観測ほ）

年次	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色	
	（月/日）	（cm）	（本/株）	（本/㎡）		葉色板	SPAD
Ｒ７	**4月30日**	**31.9**	**22.9**	**470**	**9.0**	**4.5**	**40.7**
Ｒ６	5月2日	31.1	20.6	441	9.2	4.5	42.9
平年	5月3日	33.5	22.1	476	9.1	4.6	41.7
前年比・差	−2	102	111	107	−0.2	0.0	−2.2
平年比・差	−3	95	104	99	−0.1	−0.1	−1.0

注）平年　：　H27～R６年の平均

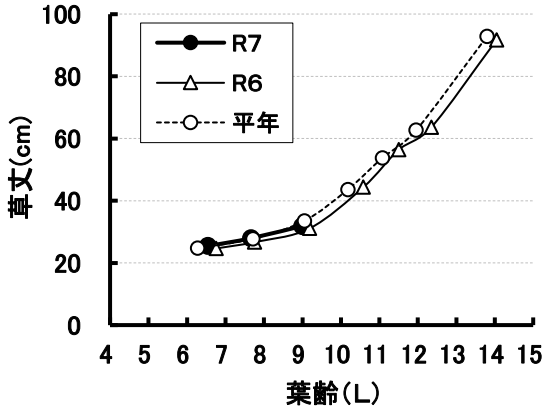


図６　草丈の推移（生観てんたかく）

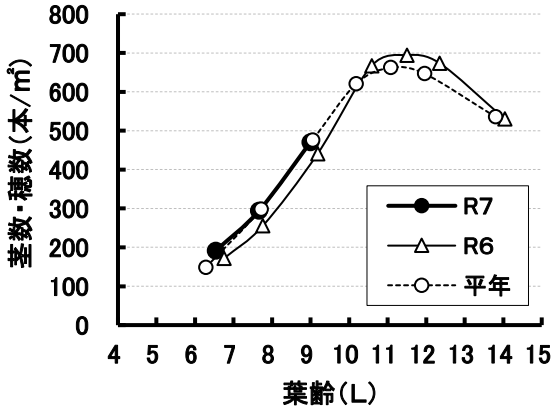


図７　茎数の推移（生観てんたかく）

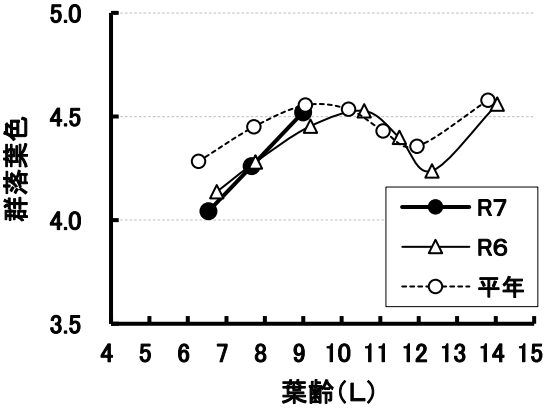


図８　葉色の推移（生観てんたかく）

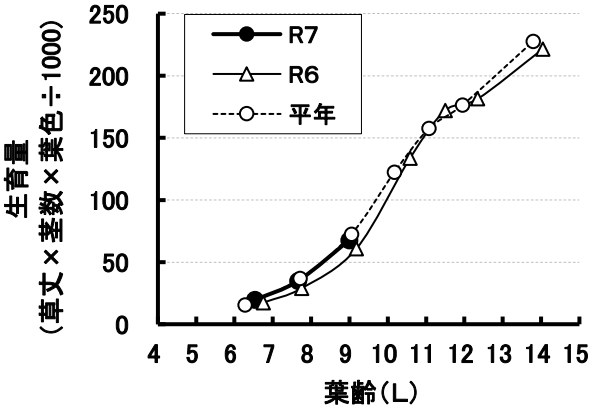


図９　生育量の推移（生観てんたかく）

（３）てんこもり

平年に比べ、草丈は短く、茎数はかなり少なく、葉色は淡く、葉齢は 1.1 葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや短く、茎数は少なく、葉色はやや淡くなっている。

表３　「てんこもり」の生育状況（６月 10 日　生育観測ほ）

年次	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色	
	（月/日）	（cm）	（本/株）	（本/㎡）		葉色板	SPAD
R７	**5月12日**	**24.4**	**12.9**	**253**	**7.6**	**4.3**	**37.4**
R６	5月8日	27.0	18.0	338	8.5	4.4	38.0
平年	5月8日	27.8	21.7	412	8.7	4.5	40.4
前年比・差	4	91	72	75	-0.9	-0.1	-0.6
平年比・差	4	88	59	61	-1.1	-0.2	-3.0

注）平年　：　H27～R６の平均

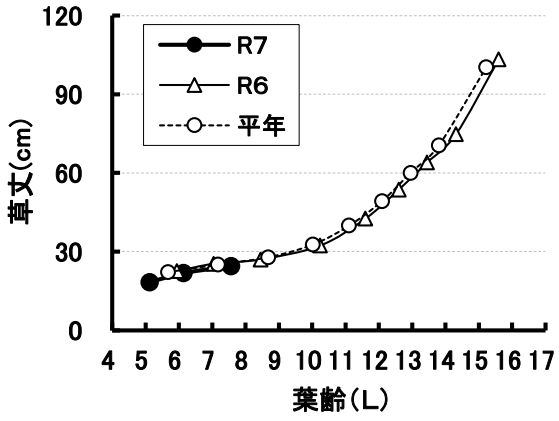


図 10　草丈の推移（生観てんこもり）

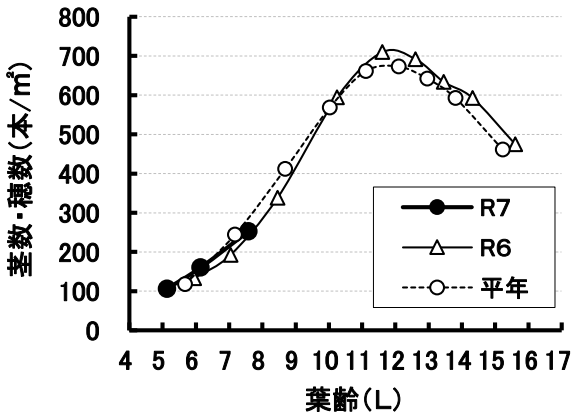


図 11　茎数の推移（生観てんこもり）

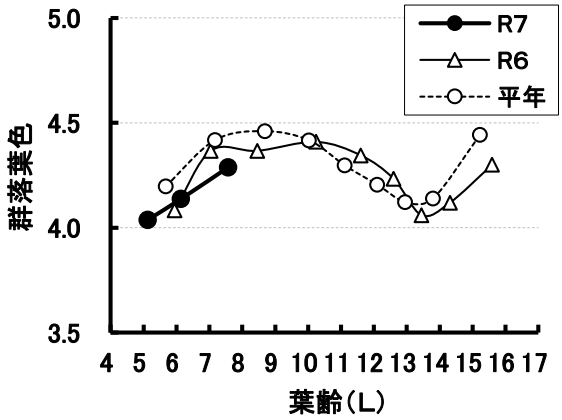


図 12　葉色の推移（生観てんこもり）

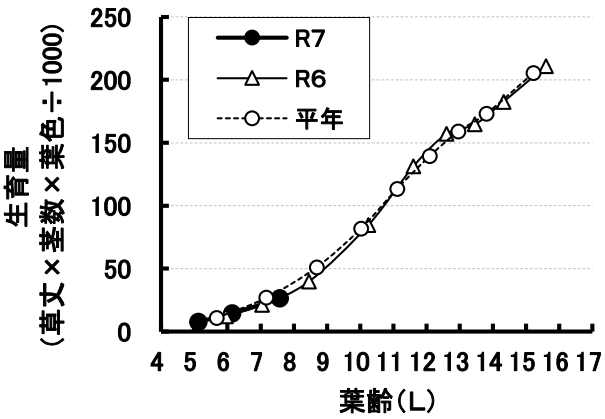


図 13　生育量の推移（生観てんこもり）

３　当面の技術対策

・「コシヒカリ」では、茎数が急激に増加していることから、中干しを田植え後４週間までに遅れずに開始する。
・中干し後は間断かん水を実施し、地耐力を確保する。
・中干しとその後の間断かん水では葉色の急激な低下を防ぐため、干し過ぎの管理にならないように注意する。

（１）「コシヒカリ」の管理

・現在、茎数が急激に増加していることから、田植え後４週間までに遅れずに中干しを開始する。
・溝掘りを実施していない場合は、早急に行う。

表４　溝掘りと中干し開始の目安

田植日（月/日）	溝掘り期間（月/日）	中干し開始時期（月/日）
5/10	5/31 ～ 6/7	6/7
5/15	6/5 ～ 6/12	6/12
5/20	6/10 ～ 6/17	6/17

（２）「てんたかく」、「てんこもり」の管理

・移植後１か月を経過したほ場は、早急に中干しを開始する。

（３）水管理の留意点

・中干しは一度に強く干し上げず、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを数回繰り返し、地耐力を高める。
・中干し後は間断かん水を行い、幼穂形成期頃までに足跡深さ３cm 程度の土壌硬度とする。また、土壌を乾かし過ぎると葉色が低下するため、干し過ぎの管理にならないように注意する。
・幼穂形成期以降は出穂期まで飽水管理を行い、葉色を維持する。

写真　中干し終了時点のほ場の状態

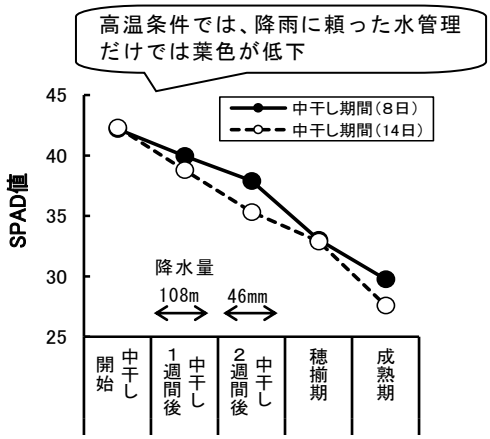
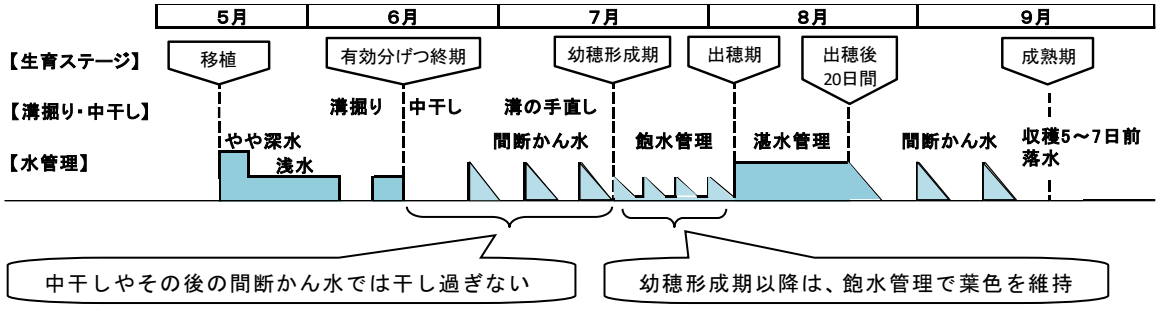


図14　中干し期間を長くした場合の葉色の推移（R６新川農林振興センター）
注）沖積砂壌土での結果

＜今後の水管理のイメージ＞



（４）病害虫防除の徹底

①斑点米カメムシ類

・越冬前の発生量が多く、春先からの好天により、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類の発生がかなり多くなっている。

・今後、気温の上昇に伴い発生量が多くなると見込まれる。カメムシ類の増殖を抑えるため、イネ科雑草が出穂しないように草刈り等、畦畔・雑草地の除草対策を徹底する。

※草刈り運動期間：６月27日（金）～７月６日（日）

一斉草刈り日：６月28日（土）～６月29日（日）

・本田内のノビエやホタルイは斑点米カメムシ類の繁殖源となるため、水田内雑草の発生状況に注意し適切な除草対策を行う。

・麦あとほ場はカメムシ類の繁殖好適地となるため、雑草が繁茂しないように管理するとともに、積極的に大豆や園芸作物、緑肥等を栽培する。

②ニカメイチュウ

・箱施薬剤を施用していないほ場や直播栽培で種子に殺虫剤を塗沫していない場合は、要防除水準（防除時６月中下旬のさや枯最盛期被害茎率：３％）に基づき防除要否を判定し、適期に防除する。

・前年に被害が多く見られた地域では、幼虫の発生がだらつくため、箱施薬剤を施用した場合でも必要に応じて適期に本田防除を行う。

※平年の越冬世代成虫の発蛾最盛期：５月 29 日（R６：５月 25 日）

③いもち病

・本田内の補植用苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除き処分する。

・箱施薬剤等を施用していない場合は、予防粒剤（抵抗性誘導剤）を６月中旬頃までに散布する。

・BLASTAM情報（農業研究所）を参考に常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

※平年の葉いもちの初発確認日は７月10日（R６：７月10日）

BLASTAM 情報（葉いもち予測システム）はこちらから →

（農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載）

④紋枯病

・前年多発したほ場などでは、出穂３～４週間前の粒剤散布や穂ばらみ期の防除を行う。

・本田防除は要防除水準に基づき防除要否を判定し、適期に薬剤が株元に付着するように散布する。

・箱施薬剤と本田防除の体系防除を行う場合は、同一系統薬剤を連用しない。

※平年の紋枯病の初発確認日は６月 26 日（R６：７月５日）

表５　紋枯病の要防除水準と薬剤散布適期の目安

品種	要防除水準（発病株率）	薬剤散布適期（防除要否判定時期）
てんたかく	５％	出穂 14 日前頃
コシヒカリ・富富富	15%	出穂 10 日前頃
てんこもり	15%※	出穂 7 日前頃

※てんこもりの要防除水準は暫定値

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

１　生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はかなり少なく、葉齢は 0.4 葉遅れている。
葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は並、茎数は少なくなっている。

表１　「富富富」の生育状況（６月 10 日　生育観測ほ等）

年次	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色	
	(月/日)	(cm)	(本/株)	(本/㎡)	(L)	葉色板	SPAD
R７	**5月17日**	**26.9**	**10.0**	**218**	**6.8**	**4.4**	**38.8**
R６	5月17日	26.5	10.8	236	6.7	4.3	39.0
近年	5月15日	28.0	13.6	291	7.2	4.4	39.5
前年比・差	0	101	92	93	0.1	0.1	-0.2
近年比・差	2	96	74	75	-0.4	0.0	-0.7

注１）R７：10ほ場平均（生育観測ほ：４ほ場、新品種実用化・プラ削減　対照区：６ほ場）
注２）近年値：H29～R６平均

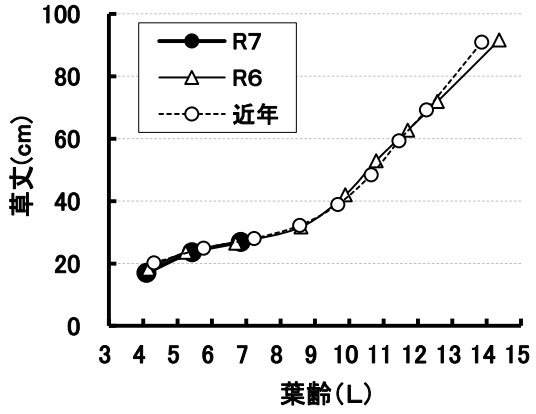


図１　草丈の推移（富富富生育観測ほ等）

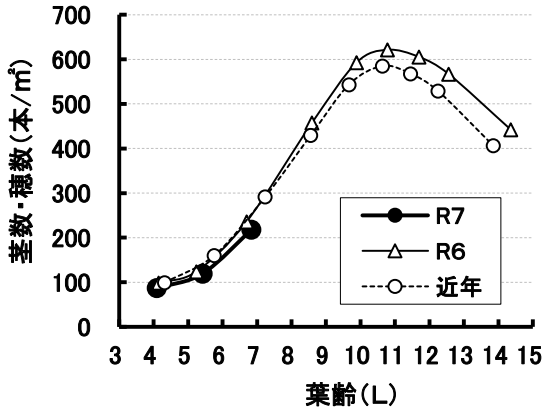


図２　茎数の推移（富富富生育観測ほ等）

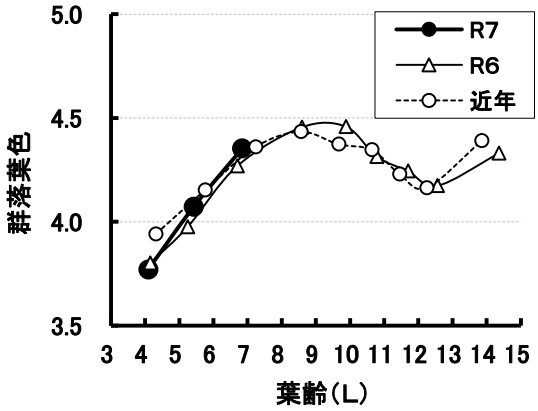


図３　葉色の推移（富富富生育観測ほ等）

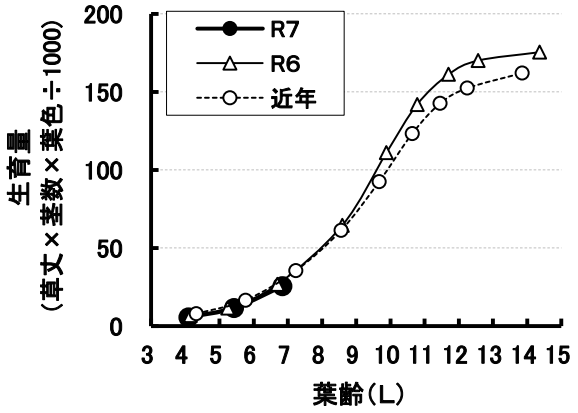


図４　生育量の推移（富富富生育観測ほ等）

２　当面の技術対策

・田植え後４週間までに中干しを遅れずに開始する。
・適正籾数に誘導するため、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。

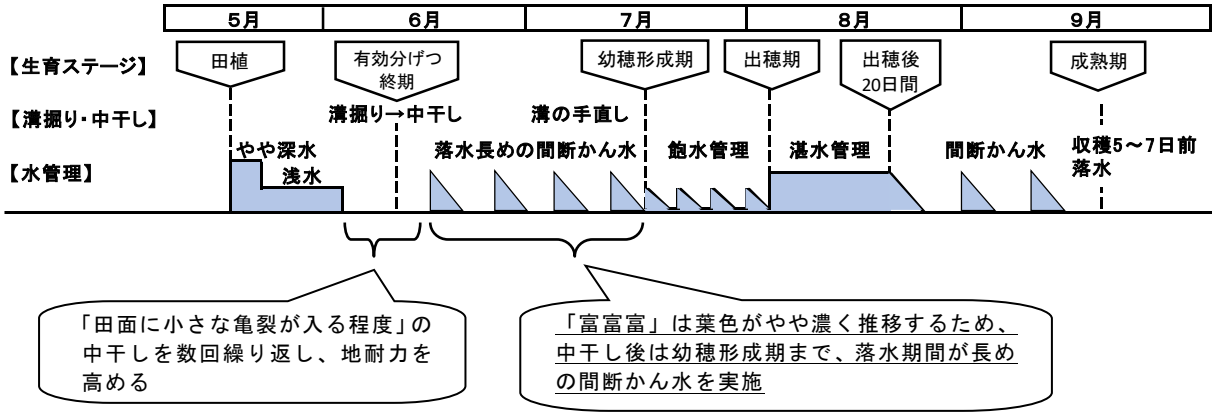
（１）溝掘り・中干しの徹底

・根圏の健全化と無効分げつの発生を抑制するため、田植え後４週間までに中干しを遅れずに開始する。
・溝掘りを実施していない場合は、早急に行う。
・中干しは一度に強く干し上げず、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを数回繰り返し、地耐力を高める。

（２）中干し後の水管理

・「富富富」は葉色がやや濃く推移し、過剰籾数により収量や品質が低下しやすいため、中干し後、幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値を 35（群落葉色 4.0）程度に誘導する。
・ただし、令和６年度は高温による葉色低下がみられたため、高温時は干し過ぎないようにする等、気象条件に合わせた水管理（落水期間の調整）を行う。

＜今後の水管理のイメージ＞



（３）その他の管理

病害虫および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるよう留意する。